

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人真観学園 霧ヶ丘幼稚園

## 1. 本園の教育目標

豊かな生活体験や遊びに幼児が主体的にかかわり、未来に向かってたくましく生きる基盤を育てる

## 2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

- 1、教職員の資質向上にむけての取り組み
- 2、一人一人の発達に応じた指導・援助のため、子どもを理解する力を高める
- 3、子どものしなやかな体作りを意識し、日常の保育の中に取り入れ体力向上を図る。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容
教職員の資質向上のための取り組み① (自己課題をもち改善するように務めていか)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任数が多い学年(新人3名を含)は、課題やその意味を丁寧に伝え職員間で共有し、改善に取り組んできたことが課題⇒改善の良いサイクルが機能し始めていた。</li> <li>・目の前の子どもたちの姿から自分の保育を振り返り、常に課題をもち取り組んできた。その成果が子どもの育ちに見られたことが次の保育への励みになってきている。</li> <li>・失敗することがあっても繰り返さないよう自分なりに改善策を見つけ、保育者としての意識を高めているところである。</li> <li>・課題に向けて取り組んできたつもりだが、忙しさ等様々な理由で十分に改善に向けて発揮できなかったところもある。</li> </ul>
教職員の資質向上のための取り組み② (研修で得たもの保育に活かしているか)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で学んだことは即実践するように心がけてきた。上手くいったこと、いかなかったことなどその理由を振り返り、次の日へ繋がるようにしてきた。</li> <li>・研修での学びもあるが、日々の生活の中で、他のクラスの保育を見たり、先輩や同僚と会話したりして自らの課題に気付き保育に取り入れていったことが、自分のスキルアップに繋がったように感じる。(遊びの環境・子ども理解・特別支援等)</li> <li>・新任研修の中で受けた「子どもの遊びを価値づける」大切さを実感できた。今後もその姿勢を大切にしていきたい。</li> </ul>
教職員の資質向上のための取り組み③ (園内・園外研修への積極的な参加)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みや問題が起きた時は、一人で悩まず、先輩や同僚に相談しながら取り組んできたことが自分の学びへと繋がっていった。</li> <li>・在宅中での取り組みや期間中に学んだことを伝えあった園内研修は、伝える側も受ける側にもそれぞれの学びがあり、教職員のチーム意識を深める良い機会となった。</li> <li>・ZOOM等の研修会が始まった時は嬉しかった。学びを止めてはいけないと改めて感じた。</li> </ul>
一人一人の発達に応じた指導・援助のため、子どもを理解する力を高める (子どもを肯定的に認め理解に務めているか)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学期の子どもたちの姿から、自己肯定感を高める必要性を感じ、今年度は肯定的な関りを従来以上に大切にしてきた。</li> <li>その成果として、卒園前の子どもたちの姿に手ごたえを感じる事ができた。</li> <li>・子ども一人一人の思いに寄り添い、子どもが安心、安定した園</li> </ul>

		<p>生活を送れるように努めてきた。しかし、自分の関りは適切であるかどうか常に自問自答している毎日である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に自分の保育を振り返ると課題が上がってくる。 (関りが少ない子どもとより深く関わること。短所ばかりが目立つ子どもへの理解を深めること等。) そこから次への保育を考えられるようになってきた。</li> <li>・子どもを理解するための力を今後も引き続き高めていきたい。先輩や同僚に相談していく中で視野が広がり、子どもの見方が良い方向に変わってきた。</li> <li>・教師という存在は子ども達にとって最大の環境である。 (担任の気持ちが子ども達に大きな影響を与える。常に気持ちにゆとりをもつこと。ここは課題である。)</li> </ul>
<p>一人一人の発達に応じた指導・援助のため、子どもを理解する力を高める (気づきのメモ等の記録をとり、保育や援助に活かしているか)</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員数の多い2歳児クラスは、各クラスに誰でも記入しやすいメモを設置。そのメモは子ども理解に大いに役立っている。</li> <li>・記録を元に取り組んできたことが子どもの育ちにつながった時に改めて記録の重要性を感じた。</li> <li>・日々の忙しさに追われ、慌ただしく過ごし、メモすら取れず、記録が少なく指導要領を記入する時悩むことがあった。</li> <li>・後でつけようと思っても細かな部分を忘れてしまう。即メモをとる習慣をつけていきたい。</li> </ul>
<p>子どものしなやかな体作りを意識し、日常の保育の中に取り入れ、体力向上を図る</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを中心とする身体活動を十分に取り入れてきた。 楽しく体を動かすことを体験した子どもたちは、以降の活動にも積極的に参加し、体力向上に繋がっていた。</li> <li>・園外保育での歩く体験、柔軟運動を意識した室内での遊び、園庭や広い場所での鬼ごっこ、タイヤ引き、可動遊具を使っでの遊び等、様々な遊びの環境を整えていった。 その成果か、日ごとに子どもの体幹がしっかりしてきたように感じ、大きなケガなく過ごすことが出来た。</li> <li>・自粛明けの子どもからは『疲れた』という言葉がよく聞かれたが、現在はほとんど聞かれない。</li> <li>・しかし、個人差は大きい。また人や物にぶつかることはある。幼児の発達を踏まえながら力の加減をコントロールしていけるような遊びを工夫していきたい。</li> </ul>

#### 4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあったが、園長のリーダーシップの元、職員全員が保育に真摯に取り組み、それぞれが成果を感じ、新たな課題を見出している。一昨年より学んだ、(目の前の子どもの姿からの) PDCA サイクルを保育に活用することが定着してきたように思われる。</li> <li>また、研修会が少なくなってきたことが影響し、経験値の高い教師ほど現状に甘んじず、常に自己研鑽に努める傾向が見られ、若い教師においては同学年での教師間や先輩教師の保育を観て気づいたことを実践したり、先輩教師に相談したりと教師相互の対話を通じた学び合いが保育の質向上に繋がっていた。これからも良い意味で同僚性は高めていきたい。</li> <li>・幼児のしなやかな体作りは、転倒などのケガが減るなど成果が見られるので、今後とも取り組みたいと思う課題である。</li> <li>・記録の活用においては、習慣化していないことに大きな課題が残る。さらに園全体で重点的に取り組む必要がある。</li> </ul>

#### 5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の在り方 幼児への対応	<p>幼児一人一人を肯定的に認め理解につなげることへの成果が見られ始めた。</p> <p>次年度は、より丁寧に関わり、幼児の自己肯定感を更に高めていけるよう教師の意識（幼児の人権に配慮した関り）の見直しをはかりたい。</p>
幼児理解に活用できる記録の状況	<p>記録の重要性は痛感しているが、どうしても目の前のことに追われてしまう。</p> <p>とっさに記録する時は機会を活用する、就業時間内に記録のための時間をもつ等考えていきたい。</p>
組織運営	<p>大きな行事の前になると幼稚園全体が慌ただしくなる。気持ちにゆとりが持てるようにするにはどうしたらよいか、教師全体で現状を考え、行事の見直しも含めた計画的な仕事配分への取り組みも考慮していく必要がある。</p>

#### 6. 学校関係者評価委員会の評価

公開保育や自己評価の報告から、子どもが幼稚園で大切に育てられていると実感することが出来た。今年度は、コロナ禍の対応に苦慮される中、子どもも保護者も教職員も様々な思いで過ごしてこられたのだろうと推察される。どんな中でも目の前の子ども達の成長を願い、(様々な葛藤はあっただろうが) 保護者と幼稚園が理解し合い、協力して子どもを育てて頂けることが望ましいと考える。

子どもの運動能力の向上は生涯にわたっての健康への意識や運動に対する意欲につながる。これから豊かな人生を送るための基盤となる大切な課題であるので、これからも意欲的に取り組んでいって欲しい。

コロナは、人々の様々な生活に影響を及ぼした。特に子どものステイホームからのメディア依存は更に深刻になってきている。子ども達の心身の健康への影響が危惧される場所であるので、今後も啓発に努めて欲しい。